



ここにいるから

Vol. 19

発行 2023.1.1
発行者 天草漁協

生態調査レポート海編

今号は船上調査の解説です。この調査の主な目的は、イルカを一頭一頭、個体識別できるようにすることです。

天草には以前、三百頭以上の野生のイルカが生息していたと言われていました。現在は百五十〜二百程度？実情は把握できていません。そこで実態調査に動き出しました。

野生動物の個体識別方法は、動物の種類によってさまざまですが、イルカの場合には背びれのデータ収集から始まります。そのため、海況の安定する春夏にかけて、ひたすら背びれの写真を撮り続けました。何百枚も撮った中から、特徴を見つけ出していきます。今、まさに生活しているイルカなので特徴も日々変化し続けていきます。調査を継続することで、たくさんのお見ごしがあります。成果報告までしばらくお待ちください。



サンプルに適する写真

【必須条件】

- ① 背びれ全体
- ② 真横の角度
- ③ 拡大してもぶれていない

【より有効な条件】

- ① 左右の写真
- ② 晴天で風
- ③ 水しぶき、波がない
- ④ 他のイルカの映りこみなし

太陽光がない時、イルカの体色は海と混在してわかりにくい。

これらの条件をクリアすると誤認リスクの低い、個体識別の基礎情報として使えるようになる。



現場では個体の確認ができる距離。しかし、写真を拡大すると、識別に十分な解像度ではなくなる



真横の角度ではないため、凹凸の詳細がわかりにくい。

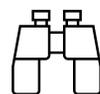


背びれの一部分が隠れて見えない状態。かなり似ている背びれ同士のイルカでは判別できない。



生態調査とSDGs

生態調査をすることで、自然環境の変化を学ぶことができます。また、生物多様性や海洋汚染、土壌汚染、地球温暖化なども自分にとって身近なテーマとなるでしょう。天草の場合、イルカを捕ったり食べたりする文化がなく、さらにイルカウォッチングは地域にとって重要な産業でもあります。経済問題や地方課題についても切り離せないテーマです。SDGsの大きな柱、社会/経済/環境の3要素に関わる課題といえるでしょう。



イルカ調査室

天草漁協 通詞島沖イルカ環境実態調査事業



やってるよ!



記事や活動についてのお問い合わせ



天草イルカラボ



amakusa_dolphin



Reiwa5nen wa usagi doshi